写》(CF 第20回院内集会

:谷岡郁子参議院議員(みどりの風)

:家森健監事

【議事内容】

1) 今、やろうとしていること : 山田恭暉理事長

2)福島原発をどうする

3)9-10月の活動報告

4)川内村復興・帰還支援活動 : 塩谷亘弘副理事長

5) 請願署名活動について : 岡本達思行動隊員

6) 原発ウォッチャー報告: 高山和彦行動隊員

2012,10,11,

公益社団法人福島原発行動隊

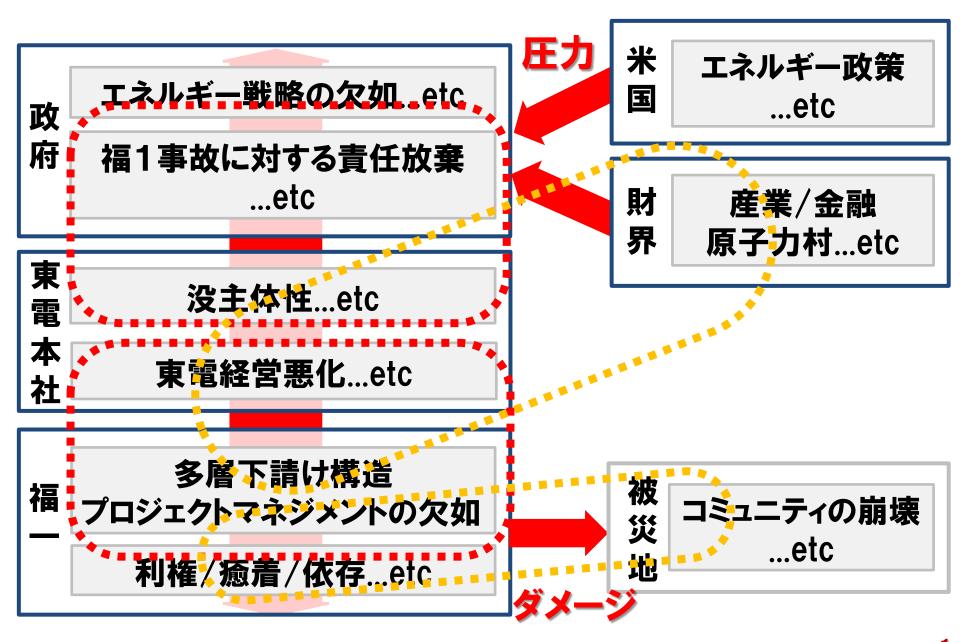
Skilled Veterans Corps for Fukushima

福島原発行動隊が 今、これから やろうとしていること。

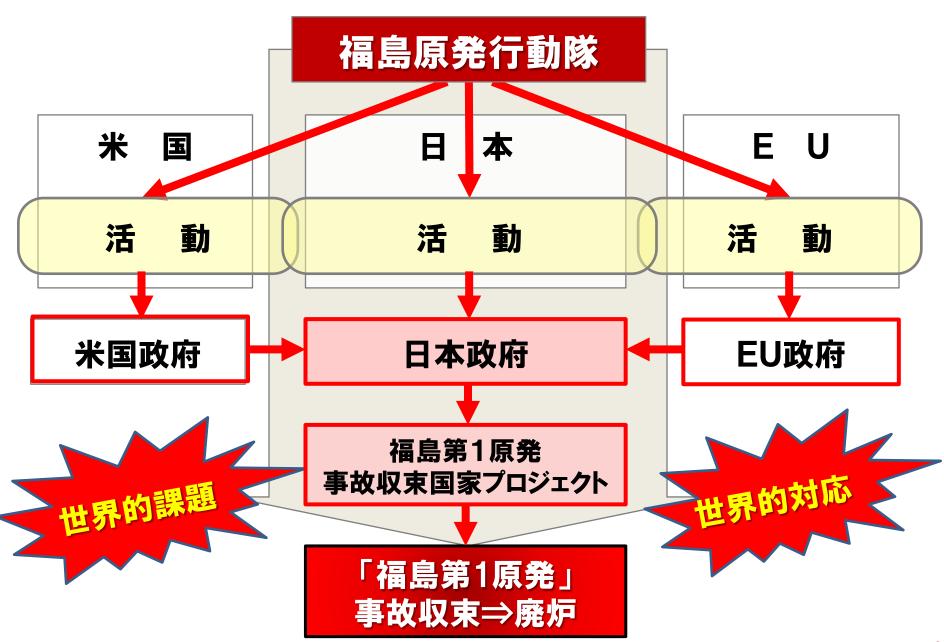
2012.10.11.

理事長 山田恭暉









福島原発を出るうする

2012.10.11.

みどりの風 谷岡郁子 参議院議員

9月-10月 活動報告

2012.10.11.

公益社団法人 福島原発行動隊
Skilled Veterans Corps for Fukushima



SVCF 9月-10月の主な活動ご報告

主な活動内容	月日	場所
諮問委員会	9/3	SVCF事務所(東京·北区)
院内集会予告ポスティング	9/4	衆参議院議員会館(東京·千代田区)
アーニー・ガンダーセン博士面談	9/5	KKRホテル(東京・千代田区)
川内村帰還事業支援実施本部会議	9/5	SVCF事務所(東京·北区)
第19回院内集会+加藤尚武氏講演	9/6	SVCF事務所(東京·北区)
第51回SVCF連絡会	9/7	SVCF事務所(東京·北区)
東京電力本社アクションプログラム会議	9/7	SVCF事務所(東京·北区)
川内村役場:副村長と交渉・仮設住宅訪問・チラシ配布	9/10	川内村(福島・双葉郡)
郡山仮設住宅:チラシ配布	9/12	郡山仮設住宅(福島・郡山市)
第1回請願署名活動pj会議	9/14	SVCF事務所(東京·北区)
第52回SVCF連絡会	9/14	SVCF事務所(東京·北区)
東京電力本社アクション:要望書提出	9/14	東電本社(東京・中央区)
第53回SVCF連絡会	9/21	SVCF事務所(東京·北区)
川内村復興支援・チラシポスティング	9/23	四倉・小名浜(福島・いわき市)
子ども夢基金アプローチpj会議	9/27	SVCF事務所 (東京・北区)
谷岡郁子参議院議員面談	9/27	谷岡郁子事務所(東京・永田町)
第54回SVCF連絡会	9/28	SVCF事務所 (東京・北区)
安全委員会	9/28	SVCF事務所(東京·北区)
SVCF通信(& 賛助会員会費支払願い)発送作業	9/28	SVCF事務所 (東京・北区)





主な活動内容	月日	場所
松村昭雄氏·村田光平氏会談	9/28	SVCF事務所 (東京·北区)
東京電力本社アクション:	9/28	SVCF事務所 (東京·北区)
Mail high 講習会	10/2	SVCF事務所 (東京·北区)
ふくしま復興支援シンポジウム「つながる・ふくしま」	10/2	郡山市民文化センター(福島・郡山市)
院内集会予告ポスティング	10/4	衆参議院議員会館(東京·千代田区)
川内村帰還事業支援実施本部会議	10/5	SVCF事務所 (東京·北区)
財政拡大pj会議	10/5	SVCF事務所 (東京·北区)
第55回SVCF連絡会	10/5	SVCF事務所 (東京·北区)
山田理事長全国行脚:仙台集会	10/6	みやぎの(宮城・仙台市)
山田理事長全国行脚:盛岡集会	10/6	パシフィックホテル盛岡(青森・盛岡市)
山田理事長全国行脚:郡山集会	10/7	川内村仮設住宅集会所(福島·郡山市)
山田理事長全国行脚:室蘭集会	10/8	室蘭市市民会館(北海道・室蘭市)
時事通信取材対応	10/10	SVCF事務所 (東京·北区)

2012.10.11.

公益社団法人 福島原発行動隊
Skilled Veterans Corps for Fukushima

SVCF 川内村

川内村との「覚書」

住民帰還に係る支援活動について 9月14日付覚書を締結しました。

〈覚書の要旨〉

1.支援業務

- ・家屋内の清掃・整理
- ・モニタリング
- ・除染(方法を協議の上)
- ・その他帰還住民の希望事項

2.申し合わせ事項

- ・無償ボランティア活動
- ・申込受付窓口は住民課
- ・住民同意に基づくこと
- ・個人情報保護厳守
- ・トラブルなど の報告義務

3.支援業務期間

・平成26年3月31日まで

今後は、隣接の福島原発事故被災自治体へ同様な覚書を結ぶべく折衝していきます。

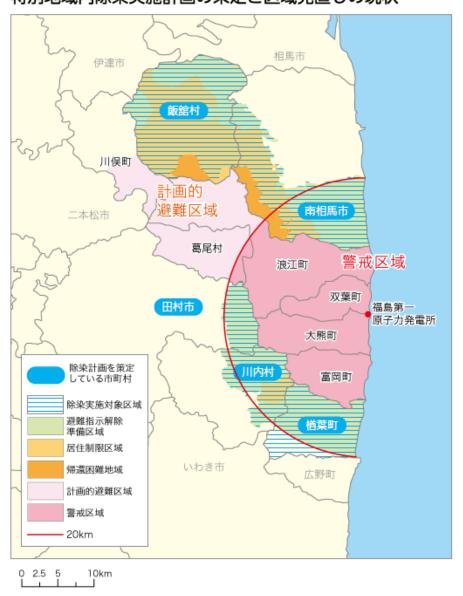


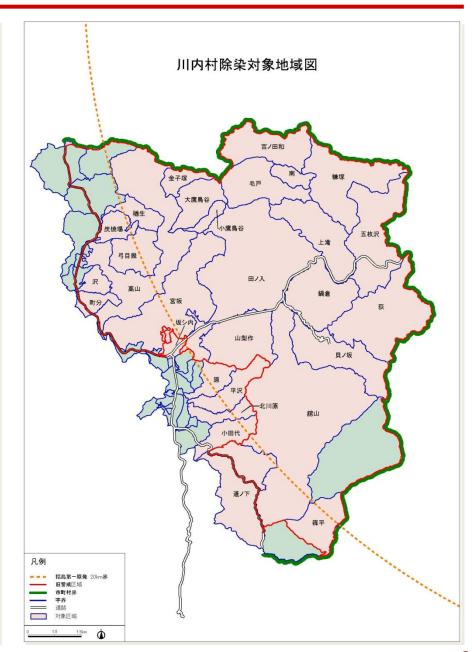




「避難指示解除準備区域」「居住制限区域」国直轄川内村除染対象地域

特別地域内除染実施計画の策定と区域見直しの現状





sVCF

放射線測定作業







五枚沢地区民家



測定値



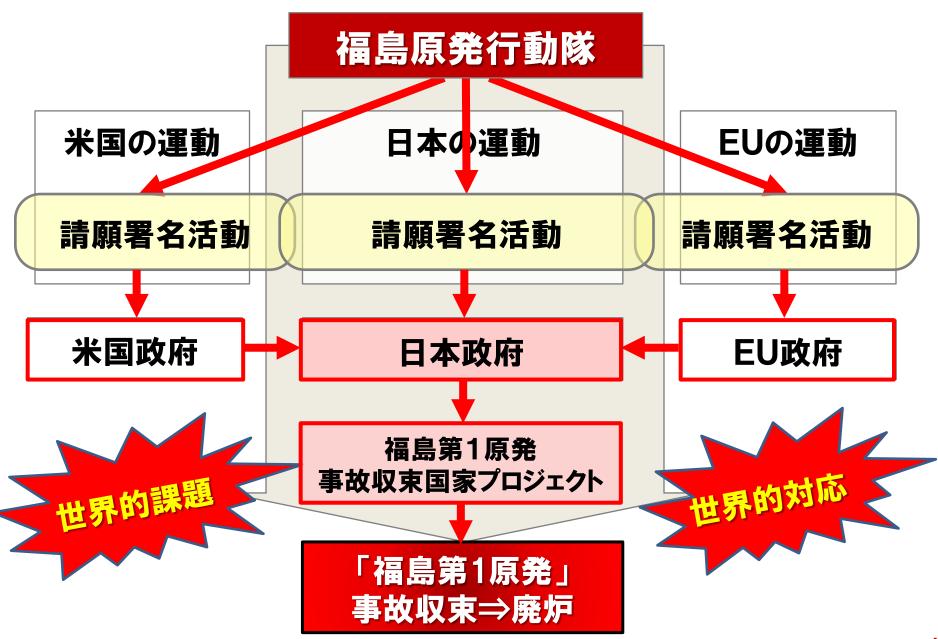
仮置き場(鍋倉地区)

請願署名 活動について

2012.10.11.

公益社団法人 福島原発行動隊
Skilled Veterans Corps for Fukushima





請願書

私たち公益社団法人 福島原発行動隊は、福島第一原子力発電所の事故収束作業による若者の被ばく を減らすために立ち上がったシニア・ボランティア(60歳以上の技術者・技能者ら)の団体です。

事故収束作業は、当事者である東京電力株式会社に委ねられたまま、危険な状況が続いています。さら に、その中で作業従事者は十分な被ばく管理もされず作業に当たっています。

私たちは、これまで日本政府に対し、福島第一原子力発電所の事故収束作業を東京電力株式会社から切り離した国家プロジェクトの下で行い、若者よりも被曝の影響が少ないシニアが少しでも現場作業を肩代わりすべきだと訴えてきました。

しかし、そうした私たちの提案は、未だに実現されておりません。

事故収束に向けては、私たちシニアの参加が必須です。是非、皆様にも本請願のご署名にご協力いただ

たたば、 画とはお頭は 申加上がます。

日本国政府 内閣総理大臣 殿 参議院 議長 殿 衆議院議長 殿

<請願内容>

- 福島第一原子力発電所の事故収束作業を、東京電力株式会社から切り離し、廃炉を目指した国家プロジェクトを発足させる法制化を求めます。
- 2. 現在、東京電力株式会社が採用している多重下請けを排し、事故収束から廃炉に至る作業管理および 作業従事者の被ばく管理を一元化したマネジメント体制の確立を求めます。

	情具有						Ē	E E					
_													
L		-											_
H													-
-													-

■呼び掛け団体 公益社団法人 福島原発行動隊 〒114-0023 東京都北区滝野川7-7-7 サークル伊藤ビル302 SVCF内 電話:03-5980-8535/FAX:03-5980-8536/http://svcf.jp

※お手数ですが、上記の呼びかけ団体あてにご署名の原本を郵送してください。(コビーやFAXは不可)

※ご署名欄には、5名全員が書き込まれていなくても結構です。

※ご署名の第一次締切日を2012年12月15日とさせていただきますので、よろしくお願いします。
※いただいたご署名は日本政府ならびに国会へ提出する以外の目的では使用いたしません。

日本国政府 内閣総理大臣 殿参議院 議長 殿衆議院 議長 殿

<請願内容>

- 1. 福島第一原子力発電所の事故収束作業を、東京電力株式会社から切り離し、廃炉を目指した国家プロジェクトを発足させる法制化を求めます。
- 2. 現在、東京電力株式会社が採用している多重下請けを排し、事故収束から廃炉に至る作業管理および作業従事者の被ばく管理を一元化したマネジメント体制の確立を求めます。

公益社団法人 福島原発行動隊



●請願署名の目的

福島第一原発の事故収束作業に参加できる気運&環境を作ること。

●請願署名の対象

全国の行動隊員&賛助会員 全国民

●請願署名の活動期間

2012年10月20日~12月15日

●請願署名の提出予定

2013年1月初旬

原発ウォッチャー 株民告 2012年 9月分

2012.10.11.

公益社団法人 福島原発行動隊
Skilled Veterans Corps for Fukushima



〈目 次〉

- 1. 使用済み燃料プールからの燃料取り出しの概要
- 2. 燃料集合体(未使用燃料と使用済み燃料の差)
- 3. 使用済み燃料プールと原子炉建屋の状況
- 4. 共用プールの復旧状況
- 5. 乾式キャスクとキャスク仮保管設備
- 6. 使用済燃料輸送容器と運搬車両
- 7. 取り出し後の燃料の取り扱いに向けた研究開発
- 8. 中長期ロードマップ
- 9. まとめ



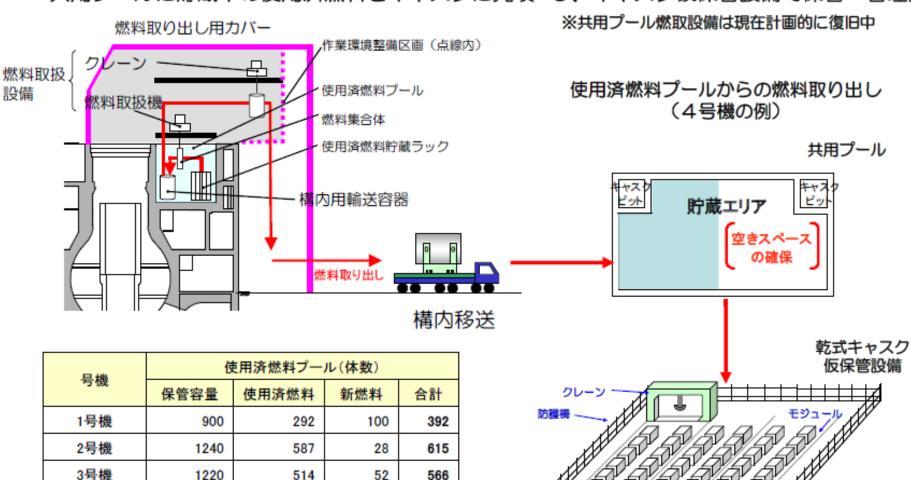
4号機

1~4号機計

共用プール

1. 使用済燃料プールからの燃料取り出しの概要

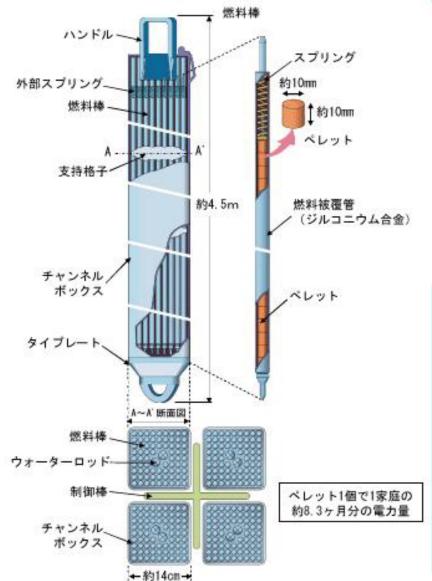
- 1~4号機使用済燃料プールの燃料を共用プールへ移送。
- 共用プールに貯蔵中の使用済燃料をキャスクに充填※し、キャスク仮保管設備で保管・管理。





2. 使用済み燃料集合体

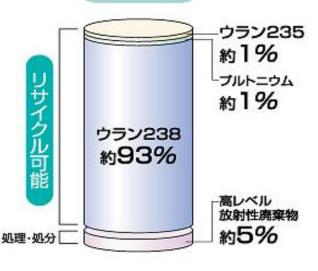
燃料集合体: 1体重量約240kg



発電前のウラン燃料



発電後のウラン燃料



☆燃料集合体1体のウラン重量 約170kg

☆消耗した燃料の量 5%(約8.5kg) (発生する熱量約2億KWH)

ウラン 235: 4%⇒ 1% =-3%

ウラン 238:96%⇒ 93% =-3%

プルトニウム239: 0%⇒ 1% =+1%

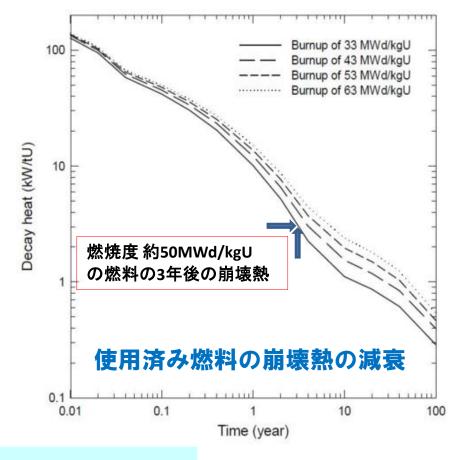
☆高レベル放射性廃棄物 5% (約8.5kg) 蓄積





ウラン235の核分裂による主な核分裂生成物

7 7 2 20	O 6 12 77	TKIL ON ON	T 0 18/11	松上 PATO
生成:	物	収率	半減期	1g当たりBq数
セシウム	Cs133	6.70%	安定	
ヨウ素	I 135	6.33%	6.57h	
ジルコニウム	Zr 93	6.30%	1.53My	
セシウム	Cs137	6.09%	30.17y	3.21 E+12
テクネチウム	Tc 99	6.05%	211Ky	
ストロンチウム	Sr 90	5.75%	28.9y	5.11 E+12
ョウ素	I 131	2.83%	8.02d	4.60E+16
プロメチウ ム	Pr 147	2.27%	2.62d	
サマリウム	Sm149	1.09%	安定	
ョウ素	I 129	0.66%	15.7My	
ウラン	U 235	tt 스스크미	0.70By	8.04E+04
ウラン	U 238	核分裂 親物質	4.47By	1.24E+04
ブルトニウム	Pu239	和竹月	24.1Ky	2.28E+07



☆未使用燃料集合体 1体の放射能量 2.57X1O9 Bq

☆使用済燃料集合体 同上 8.3 X10¹⁵Bq

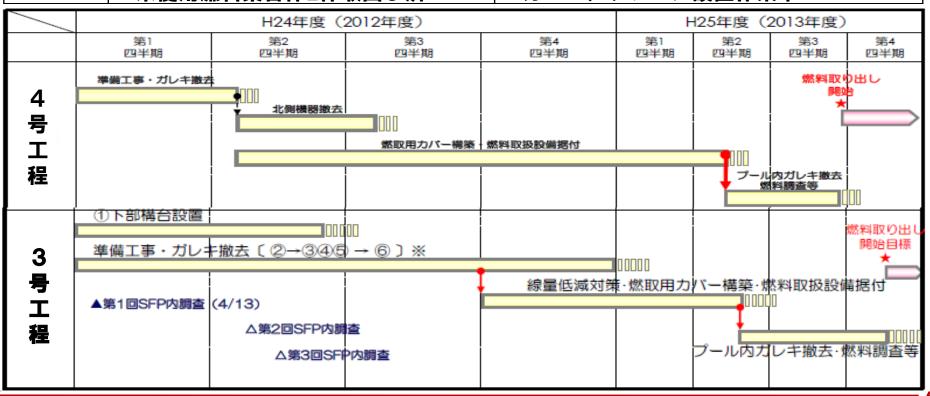
☆使用済燃料は未使用燃料に対し約3百万倍の放射能を持つ

☆使用済燃料集合体1体は3年後でも約 500W 程度発熱する



3. 使用済み燃料貯蔵プールと原子炉建屋オペフロの状況

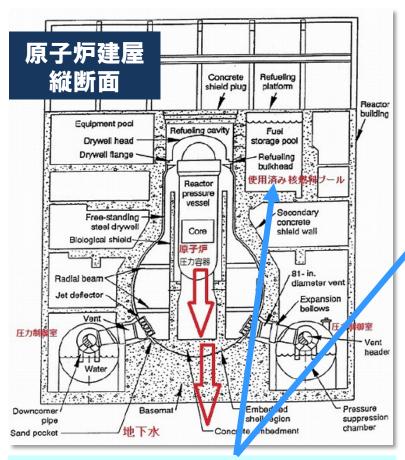
	使用済燃料プール	原子炉建屋オペフロ
1号機	プール内調査未着手	爆発損傷 カバー取り付け 8月上旬バルーン調査実施
2号機	プール内調査未着手	ロボットによりオペフロ調査実施 (目視確認、線量、温室度調査)
3号機	ガレキ調査(4月に予備調査)	爆発損傷 9月10日からガレキ撤去 構台設置作業中
4号機	ガレキ調査 実施 未使用燃料集合体2体取出し済	爆発損傷 ガレキ撤去完了 カバー、クレーン設置作業中







使用済み燃料貯蔵プールと原子炉建屋の位置関係

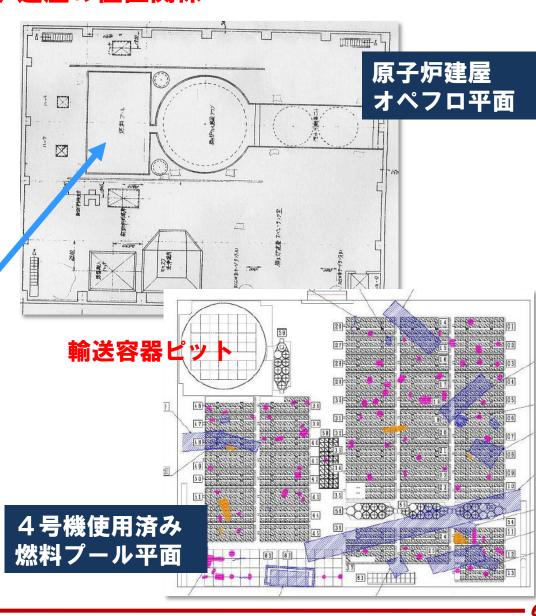


燃料プールサイズ(1号機)

深さ:約12m

上部開口部:約12mX8m

保有水量:約1100トン







原子炉建屋オペフロ平面(建設中)



天井 クレーン

原子炉 ウェル

輸送容器 ピット

使用済み 燃料プール

燃料集合体貯蔵ラック

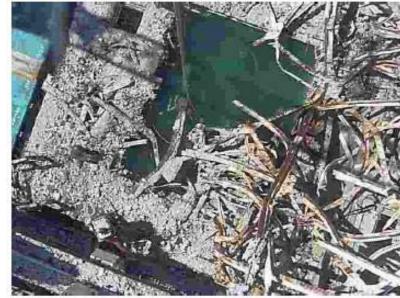




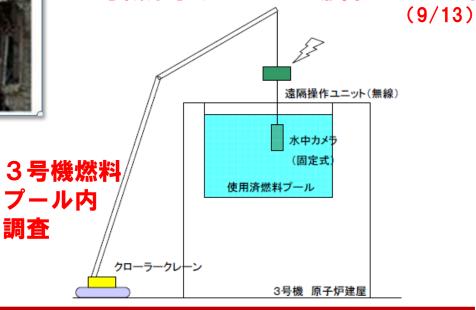




4号機原子炉建屋オペフロ (7/18)



3号機原子炉オペフロ燃料プール上部



調査



3. 使用済み燃料貯蔵プールと原子炉建屋オペフロの状況

3号機燃料 プール内 状況 (9/13)



使用済燃料プールガレキ(水中)①



使用済燃料プールガレキ(水面)③



使用済燃料プールガレキ(水中)②

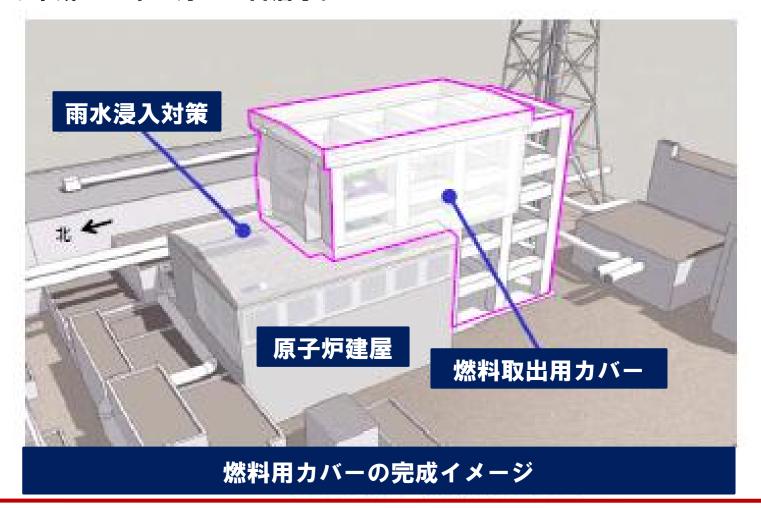


使用済燃料プールガレキ(水面)4



4号機燃料取出用カバー設置工事

- ☆燃料取出用カバーを、燃料取扱設備の支持、燃料取出作業環境の整備及び 燃料取出作業に伴い発生する放射性物質の飛散・拡散抑制を目的に設置。
- ☆工事は平成24年4月17日着手。





4. 使用済燃料貯蔵 共用プールの状況



<共用プールの現状>

※共用プール容積 約4,000m3

※天井クレーン:2月に復旧

※燃料取扱い設備:点検中

※非常用電源設備:5,6号機

非常用D/G出充電可能

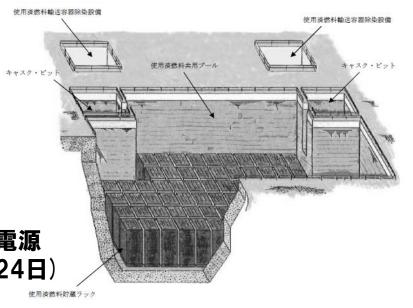
※崩壊熱は3月11日の時点で1.13MW (使用済燃料6375体)

※津波で全交流電源を喪失しプールの冷却機能 (空冷)及び補給水機能を喪失

※その後、プールの水温は上昇を続けたが、外部電源 が復旧し仮設電源設備を経由で受電した(3月24日) が、プール水温の上昇は最大73℃に達した

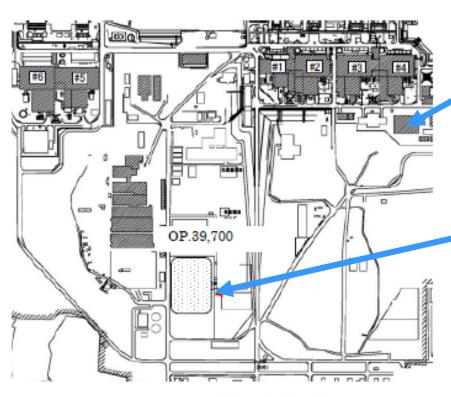
※以降、30~40℃程度の温度で安定した状態を維持

※共用プール内使用済み燃料の破損の可能性は低い





5. 乾式キャスク仮保管設備



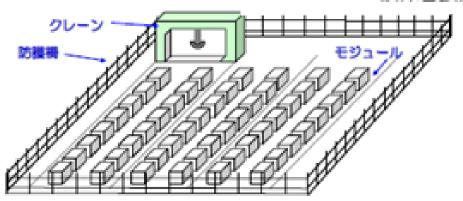
使用済燃料貯蔵 共用プール



乾式キャスク 仮保管設備



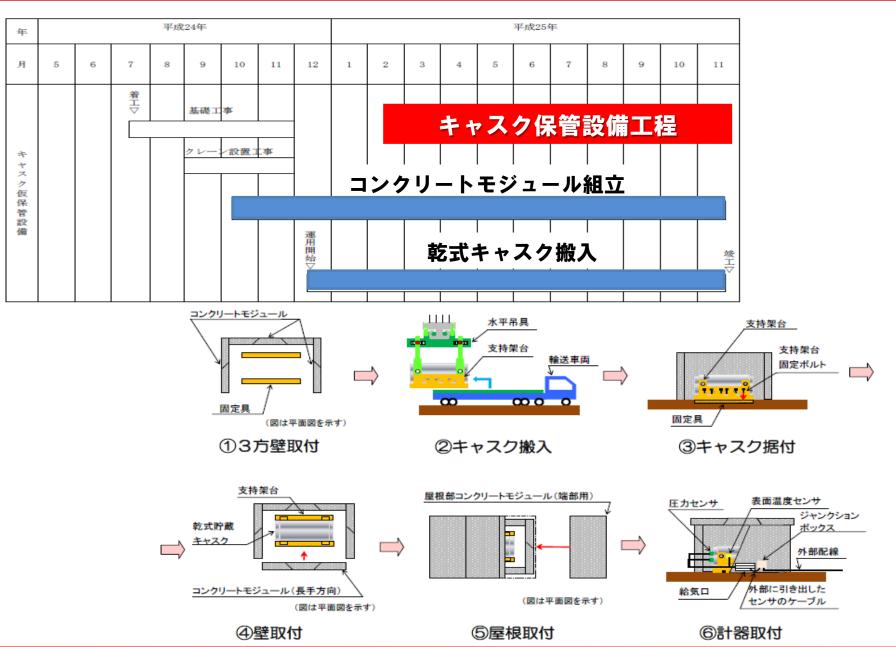
(ホウ素入りアルミ合金)



乾式キャスク(乾式貯蔵キャスクは自然対流により空冷される)

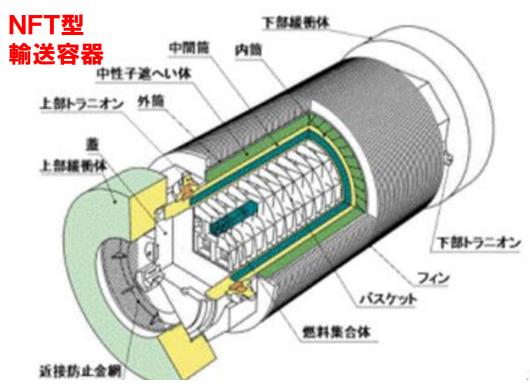








6. 使用済燃料輸送容器 運搬車両



輸送容器 重量70~120トン

全長 約6.4m 外経 約2.3~2.6m

燃料集合体収容数12~38体

輸送車両 全長約12m、全幅約3.2m、全高1.8m

車両重量 約33.7トン

最大積載量 約135トン

使用済燃料・ガラス固化体輸送車両



- ※使用済燃料は、発電所の貯蔵プールで一定期間冷却し、崩壊熱を減らしてから輸送する
- ※輸送容器は、放射性物質を閉じ込め、 放射線を遮へいし、崩壊熱を除去し、 臨界を防止する能力を備えている
- ※オペフロから落下させても、中の燃料集合体を破損させないための緩衝体を備えている

7. 取り出し後の燃料の取り扱いに向けた研究開発

1)取り出し後の燃料の取り扱いに向けた研究開発

第2期中期の完了目標

- ・長期にわたって保管する場合、塩化物イオン等の付着物や燃料ペレットからのFP等の環境への溶出および材料の照射硬化などの要因が重畳し、燃料集合体、共用プール機器等の劣化を加速する可能性も考えられる
- ・将来の再移送時の取り扱い時健全性を確保するため、実機の燃料を用いた調査/試験結果を基に長期健全性を評価し、必要に応じて対策案を検討する。

2) 使用済燃料プールから取り出した損傷燃料等の処理方法の検討

第2期中期の完了目標

- ・原子炉建屋プールの燃料には上記のように破損・損傷している可能性がある。
- ・これらの燃料の再処理における技術的課題の調査・検討を行うとともに、再処理が可能か 否かを判断するための指標を整備しておく。



8. 中長期ロードマップの主要スケジュール(燃料取り出し計画抜粋)



- ☆4号機:ステップ2完了後2年以内(2013年中)に取り出し開始
- ☆3号機:2014年末を目標に取り出し開始
- ☆1号機:3、4号機での知見・実績を把握するとともに、ガレキ等の調査を具体的な計画を検討、立案し、第2期(中)の開始を目指す
- ☆2号機:建屋内除染、遮蔽の実施状況を踏まえて設備の調査を行い、踏まえて 具体的な計画を検討、立案の上、第2期(中)の開始を目指す
- ☆第2期(後)には、全号機の燃料取り出しを終了
- ☆取り出した使用済燃料の再処理・保管方法について、第2期(後)に決定
- ◎行動隊としての参加でき得るケース:高線量区域の建屋内除染